

令和2年度
安来市地域包括支援センター事業実施報告書

I.	総合相談支援業務	P1
II.	権利擁護業務	P3
III.	包括的・継続的ケアマネジメント業務	P5
	■個別地域ケア会議	P5
	■校区別地域ケア会議	P7
	■安来市地域ケア推進会議	P9
IV.	介護予防ケアマネジメント業務	P11
	一般介護予防事業	
V.	(住民運営通いの場 こけないからだ体操)	P12
VI.	認知症施策推進事業	P15
VII.	組織運営	P17
VIII.	主な実態調査	P23

I. 総合相談支援業務

1. 相談件数・内訳

(1) 包括支援センターと市内3ヶ所の在宅介護支援センターに総合相談窓口を委託実施した。

相 談 件 数 (包括・3在介の合計)				
年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年比
実 人 数	1,118	900	1,198	1.33倍
延べ相談数	1,867	4,593	6,089	1.33倍

内 容 \ 年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年度比
困難事例	26	176	579	3.29倍
高齢者虐待(疑含む)	22	185	591	3.19倍
家族不和	-	373	887	2.38倍
社会的孤立	-	203	475	2.34倍
施設入所支援	39	152	321	2.11倍
地域とのトラブル	-	175	336	1.92倍
ケアマネ支援	50	341	635	1.86倍
生活困窮	36	215	368	1.71倍
福祉用具・住宅改修	109	280	454	1.62倍
ゴミ屋敷	2	49	76	1.55倍
状況(実態)把握	290	1,238	1,814	1.47倍
成年後見	9	86	112	1.30倍
介護疲れ	-	440	562	1.28倍
認知症(疑含む)	747	1,656	2,096	1.27倍
介護保険申請・サービス	656	2,263	2,829	1.25倍
入退院支援	169	629	566	0.90倍
障がい・難病	55	463	372	0.80倍
8050・ダブルケア	-	157	95	0.61倍
権利侵害(金銭搾取・消費者被害)	-	41	24	0.59倍
依存症(ギャンブル・薬物)	-	77	31	0.40倍
免許返納・移動			141	※新規集計項目
アルコール問題(依存症含む)			118	
受診支援・受診同行			132	
住居確保・住み替え			31	
介護と仕事・介護離職			29	
講師・講演依頼			24	
就労支援			6	
苦情	14	30	21	0.70
連絡・伝言(問合せ)	-	229	144	0.63
その他(上記以外のもの)	258	768	734	0.96

(2) 複数の課題が重なるケースへの対応

2種以上の課題を抱えるのは全体で305人、一人あたりが抱える課題の平均は2.58項目であった。

課題の数	人数(実数)
3項目	109
4項目	41
5項目以上	38

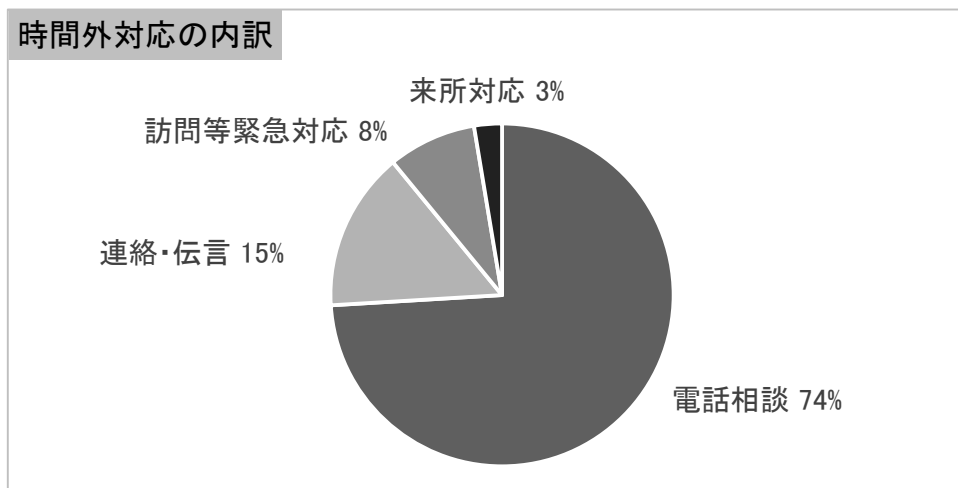
(3) 新規件数の相談経路

相談経路区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度対比
近隣住民・知人	22	14	33	2.36倍
行政	37	40	57	1.43倍
包括支援センター	31	28	31	1.11倍
家族・親族	250	400	368	0.92倍
医療機関	141	170	154	0.91倍
介護支援専門員	19	61	54	0.89倍
本人	57	120	99	0.83倍
民生児童委員	57	80	53	0.66倍
警察	5	17	10	0.59倍
介護事業所	3	73	36	0.49倍
その他関係機関	20	30	71	2.37倍

2. 時間外・休日相談内訳及び対応

時間外・休日相談を実施、相談対応件数617件、対応時間は延べ約204.8時間。

時間外相談件数 617件		
内 訳	件数	対応時間
電話での相談	453	127.3h
連絡・伝言	92	9.2h
訪問等の緊急対応	51	53.8h
時間外の来所対応	16	10.3h



II. 権利擁護業務

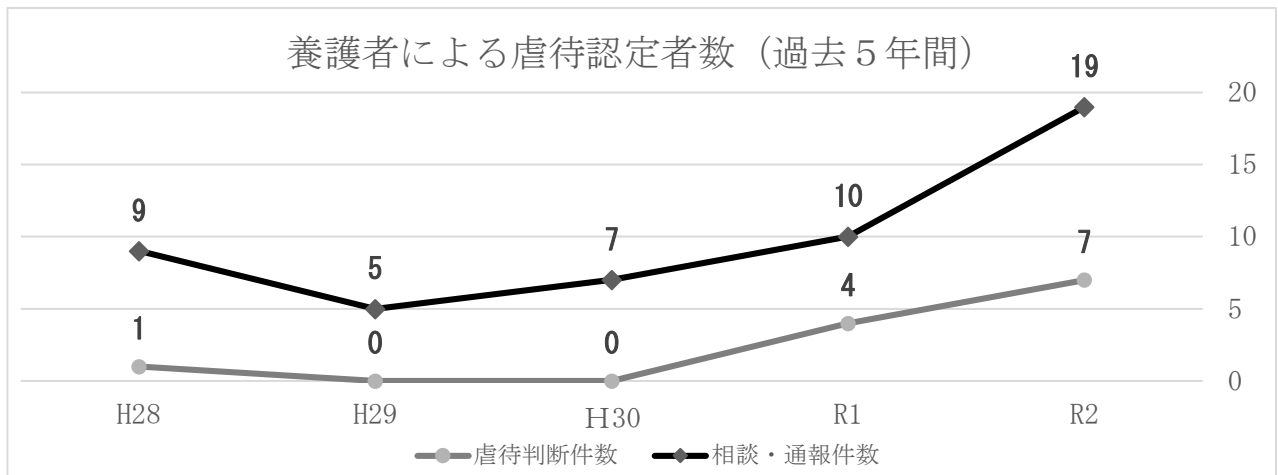
1. 高齢者虐待

- (1) 高齢者虐待に関する相談は19件。市とコアメンバー会議を開催し、7ケースが虐待認定された。緊急保護が必要なケース、受診が必要なケースなど事実確認を行いながら、関係機関（医療機関、障がい者福祉係、警察等）と連携し虐待対応、養護者支援を行った。虐待原因としては、障がい・認知症・介護負担・生活困窮と本人だけでなく家族支援が必要なケースが増えてきている。またストレスによる家族不和や家庭内トラブルも増加傾向にある。

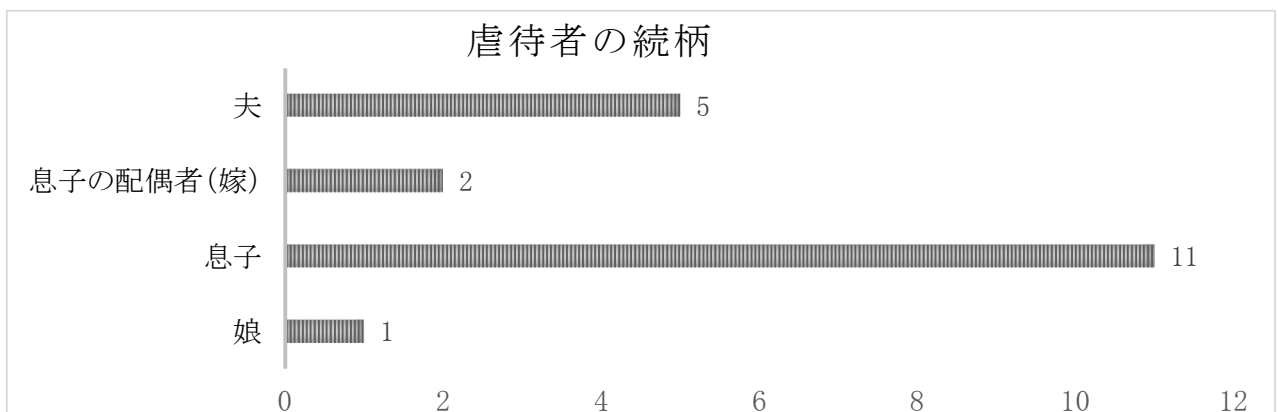
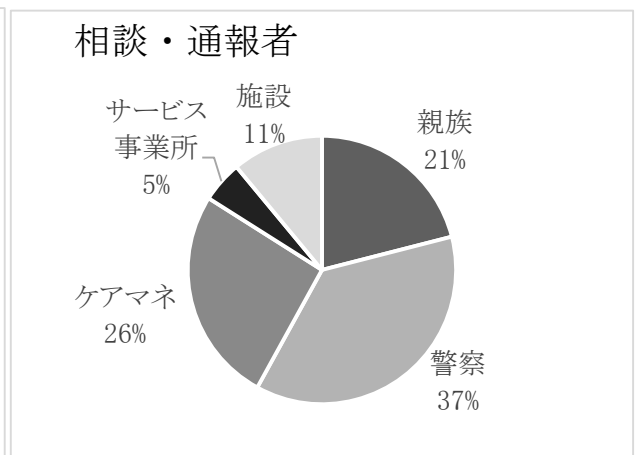
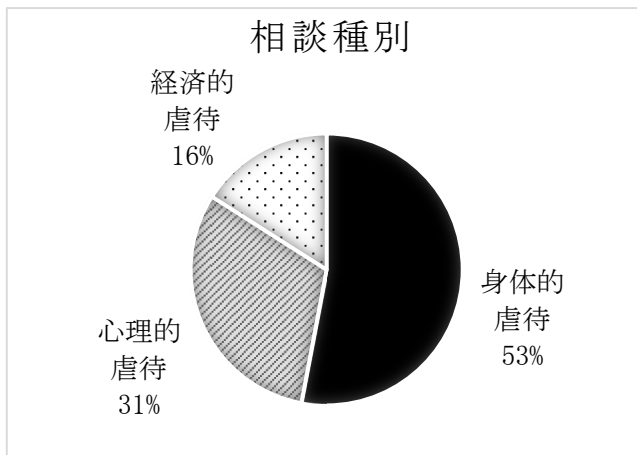
評価とモニタリングについては、高齢者虐待防止対策協議会で行っている。コアメンバー会議に至らなかったケースについては包括内で検討後、関係機関・担当ケアマネ等と連携し状況確認やサービス導入、変更、追加等の対応を行なった。

広報活動として包括ニュースレターや社協だよりへ啓発記事の掲載、包括のホームページ等で普及啓発を行った。

(2) 養護者による虐待



令和2年度虐待と認められた件数：7件（令和元年度は5件）



2. 成年後見制度の利用促進

新：支援者のための成年後見制度活用講座

日 時：令和2年11月6日（金）

場 所：広瀬社会福祉研修センター「視聴覚室」

講義Ⅰ：「成年後見度の概要について」

アザレア法律事務所 弁護士 井木博子 氏

講義Ⅱ：「成年後見制度の申立てについて」

松江家庭裁判所 主任書記官 桑原昌美 氏

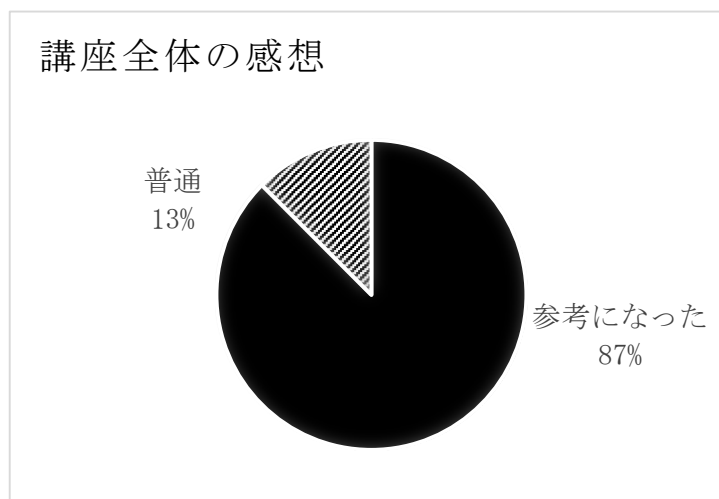
参加者：20名

【意見・要望】

- ・弁護士等からの話を聞く機会はなかなかないので、いつもとは別の視点で考えられ、良い経験となった。
- ・市民後見人の養成が必要。
- ・中核機関の設置や市民後見人養成講座などが必要。

【今後の課題】

- ・どこの地域であっても制度利用ができる体制整備
(広報啓発、権利擁護関係者のネットワーク⇒中核機関の設置)
- ・市民後見人の養成（担い手の確保）
- ・法人後見の拡充（社協以外の法人後見の受任）



3. 成年後見相談件数：4件（実人数）

手続き支援（成年後見制度申立て）1件

連携先：社協（エンディングサポート事業）、成年後見人、司法書士、医療機関

4. 他機関との連携

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 1. 個別ケース会議 | 21ケース（困難事例、権利擁護、障がい、虐待、ケアマネ支援） |
| 2. 個別地域ケア会議 | 13ケース（困難事例、権利擁護） |
| 3. 他機関主催ケース会議参加 | 7ケース（基幹相談センター、ハローワーク、病院、社協等） |

5. 消費者被害の防止

相談件数：3件（訪問販売 クーリングオフ 送り付け商法）

連携先：安来市消費生活センター、医療機関、福祉課、基幹相談センター

Ⅲ. 包括的・継続的ケアマネジメント業務

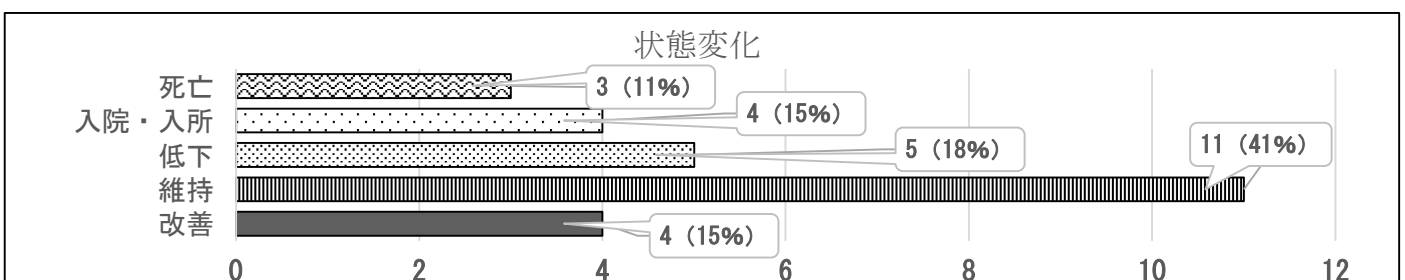
1. 個別地域ケア会議（自立支援型ケアマネジメント会議）

- 会 場：広瀬社会福祉センター（視聴覚室）
- 目 的：自立支援・重度化防止に資するケアマネジメント実践力の普及展開を図る。
- アドバイザー：介護保険課・管理栄養士・歯科衛生士・主任介護支援専門員・リハビリ専門職・薬剤師
臨床心理士・公認心理師

No.	実施日	対象者	参加数	会議内容 (アドバイザーを交えた課題整理・助言)
第1回 (評価報告)	7/15	評価報告者・アドバイザー 介護保険課・包括職員	16名	評価 4 ケース(R元年度/事例検討分)3 ケースが在宅継続(うち2ケースが状態維持・改善)
第2回 (事例検討)	8/19	事例提供者・アドバイザー 介護保険課・包括職員	11名	①友人宅への外出を目指す小規模多機能ケース ②精神疾患を抱え、健康管理の下で畑仕事の再開を目指すケース
第3回 (評価報告)	9/16	評価報告者・アドバイザー 介護保険課・包括職員	17名	評価 5 ケース(R元年度/事例検討分)全ケースが在宅生活を継続(うち1ケースが状態改善)
オンライン 公開講演会 (第4回)	10/16	事例提供者・評価報告者 アドバイザー・サービス事業 所(居宅・通所・訪問サービ ス)・介護保険課・包括	22名	(1)事例報告・評価報告それぞれ1ケース (2)講演「自立支援型ケアマネジメントと自立支援会 議の意義」講師:(株)ライフリー佐藤孝臣氏
第5回 (事例検討)	11/18	評価報告者・アドバイザー 介護保険課・包括職員	17名	評価 4 ケース(R元年度/事例検討分)3 ケースが在宅継続(うち2ケースが状態改善)
第6回 (評価報告)	12/16	事例提供者・アドバイザー サービス事業所担当者・介護 保険課・包括職員	18名	①認知症独居高齢者の IADL を中心とした自立支援 を目指すケース②別居家族の協力が得られにくい高 齢世帯。老々介護の中で、世帯の自立支援を目指 すケース
第7回 (事例検討)	1/20	事例提供者・アドバイザー 介護保険課・包括職員	15名	①本人・主介護者とも鬱の既往あり、家族関係を考慮 しながら自立支援を目指すケース②主介護者へ認 知症の理解を促しつつ、本人の「やってみたい」の実 現を目指すケース
第8回 (事例検討)	2/17	事例提供者・アドバイザー サービス事業所担当者 介護保険課・包括職員	16名	①②IADL の自立を目指し、家族支援の在り方を考 えるケース②在宅生活に対する家族の不安感を軽 減し、本人の自立支援を目指すケース
主な意見・感想				
①目指す姿や自立支援に向けた具体的課題を一つ一つの事例ごとに思い描き、支援して行きたい(ケアマネ) ②1つ1つの課題解決は必要だが、最終的に「目指す姿」にいかにか近づけるか話し合う事が大切(アドバイザー) ③生活のどの部分に価値を見出すか、本人が大切にしている事(してきた事)、嗜好性を意識しながら検討するこ とを心掛けている(アドバイザー) ④居宅プランと個別援助計画について、優先順位に相違点があった。今後、精査すべきと考える(サービス事業所)				
≪今後の課題≫ ①成果・効果の見える化 ②自立支援の目標共有 ③改善後の受け皿整備				

「検討事例」追跡調査結果

期 間：平成30年3月～令和2年9月（対象者27名）



新：専門職の同行訪問

昨年度、会議の効果を高めるためのアンケートを実施。アドバイザーが同行訪問・指導助言することで対象者の状態改善に向けて「効果が得られる（見込まれる）」との回答が9割を超えた。本年度より事例提供者の希望に応じ、専門職による同行訪問を実施した。

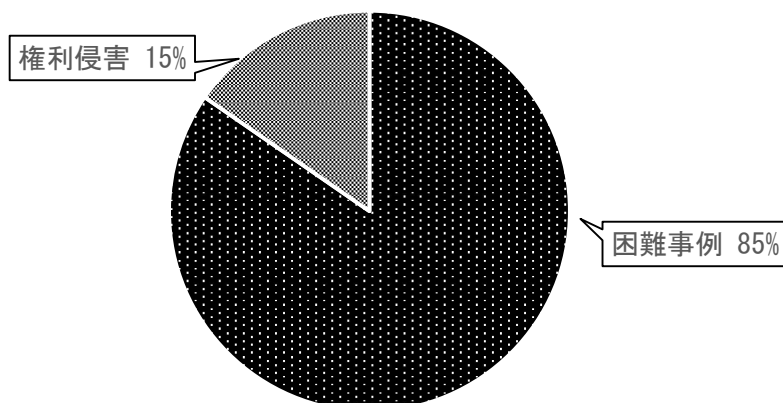
※作業療法士による同行訪問。本人の意向や動作確認後、福祉用具等について情報提供・助言を実施。



2. 個別地域ケア会議（虐待・困難ケース）

No.	実施日	会場	参加者	内容
1	6/4	広瀬社会福祉センター	7名	困難事例(認知症疑い):金銭管理について検討を行う
2	6/30	広瀬社会福祉センター	7名	困難事例(認知症疑い):虐待未然防止、介護者負担軽減
3	7/1	広瀬社会福祉センター	10名	困難事例(認知症疑い):虐待未然防止、介護者負担軽減
4	9/4	健康福祉センター	5名	困難事例(介護能力なし):在宅以外の支援先・入所含め検討
5	9/17	社会福祉協議会本所	8名	困難事例(アルコール 受診):情報共有、今後の支援について検討
6	9/27	広瀬社会福祉センター	7名	困難事例:家族不和、成年後見制度等の検討
7	11/19	社会福祉協議会本所	5名	権利擁護:情報共有と役割分担①
8	12/1	社会福祉協議会本所	5名	権利擁護:情報共有と役割分担②
9	12/7	いきいきの郷はくた	8名	困難事例:冬季に向けて本人への支援について検討
10	1/12	社会福祉協議会本所	6名	困難事例:認知症の本人と障害のある息子の今後の支援について
11	2/4	社会福祉協議会本所	6名	困難事例:生活保護者の今後の支援について
12	3/22	いきいきの郷はくた	9名	困難事例:家族不和 在宅での生活をどう支援していくか検討
13	3/25	社会福祉協議会本所	6名	困難事例:情報共有と役割分担

個別地域ケア会議の内容



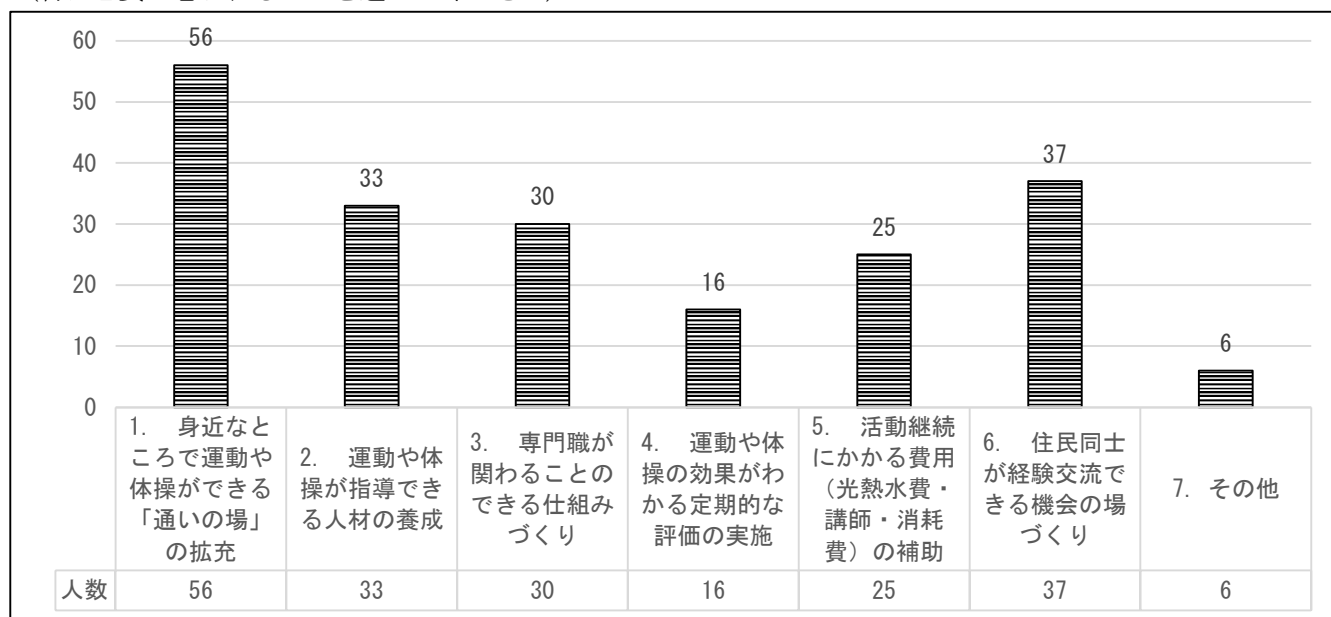
2. 校区別地域ケア会議

「地域におけるフレイル予防・介護予防・健康づくりを考える」をテーマに、住民運営通いの場（こけないからだ体操）の活動報告をもとに、多職種（多機関）において地域課題を共有し、解決に向けた協議ならびに意見集約を行った。なお、新型コロナウイルス感染対策の観点から、人数制限とリモートによる2会場分散での開催を行った。

校区	実施日	会場	参加者	テーマに基づく意見集約等
一中校区	10月8日(木)	安来中央交流センター	26名	<p>自分の住む小地域で介護予防を進めるために必要なものは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集いの場・世話人の確保や参加者同士の声を掛け合う環境づくりが必要 ○相談場所等の情報発信する <p>住民主体の「フレイル予防」「健康づくり」について話し合いの機会をもつための工夫は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導者(リーダー)育成する仕組みづくり
一・三校区	10月21日(水)	広瀬社会福祉センター	29名	<p>自分たちの地区で誰でも参加できる通いの場ができるために何が必要か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○核となる人材(リーダー)育成 ○デイサービス送迎車等の活用を検討する <p>健康づくりに必要な情報が得られる環境づくりに必要なヒト・モノ・コトは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チラシ等の全戸配布、ICT活用 ○自主防災組織と連携した高齢者の実態把握
広瀬中校区	11月5日(木)	広瀬社会福祉センター	28名	<p>中山間地域で住民運営の通いの場の活動ができるために必要な「モノ・コト」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門職を派遣できる仕組みづくり(見える化) ○集落単位での移動手段的確保 <p>活動を続けていくための後継者やボランティアの育成はどのようにしていくか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移動の問題がある為、デイサービス送迎車等の活用を検討してはどうか。 ○活動は夜の部を設け、仕事を持つ世代も参加できるよう環境づくり
伯太中校区	11月16日(月)	いきいきの郷はくた	22名	<p>身近な地域で「フレイル予防」「健康づくり」の意識を高め、活動を進めるために必要なことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集会所、交流センターに限定せず、身近な場所で行ってはどうか。 ○既存の社会資源を市民に分かるよう周知してはどうか <p>住民主体の「フレイル予防」「介護予防」の運営のための工夫は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出前講座の手続きの簡略化 ○専門職(運動・口腔・栄養等)が関われる仕組みづくり ○こけないからだ体操の普及(どじよっこ放映継続)

校区別地域ケア会議アンケート結果（抜粋）

Q. 「地域におけるフレイル予防・介護予防・健康づくり」について、どのようなことが必要と考えられますか？
（特に必要と思われる3つを選んでください）



Q. 今回の会議を通じて、「フレイル予防」「介護予防」「健康づくり」についての課題・意見・要望等

- 通いの場に出掛けていただくためには、参加される方にとって、やさしい環境設定（場所・移動への配慮など）が必要である。
- 高齢者が地域の中で組織化されていない（敬老会が無い地域が多い）ミニデイ・ミニサロンへの参加もされていない。参加を促進する施策や指導者の育成が必要。
- 地域住民の皆様と、どんな地域をつかっていきたいか、何の目的でその活動をするのか、共有して、同じ目標に向かって進んでいけるような場を大切にしていきたい。
- 地域の実情は様々。それぞれの予防活動や健康づくりは大切なことではあるが、“移動手段”という話があったように、地域における生活の基盤があってこそその事業だと感じた。
- 中心となって頑張っている人へのサポート体制づくり。会場への送迎、参加しやすい環境づくり、活動に参加する動機づくりが必要。

感染防止対策を図りながらの校区別地域ケア会議の様子



3. 安来市地域ケア推進会議

期 日 令和3年2月28日(日) 午後1時～4時

会 場 安来市総合文化ホールアルテピア(小ホール)

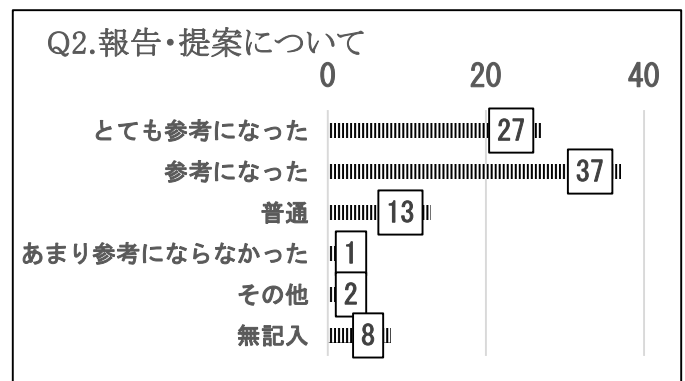
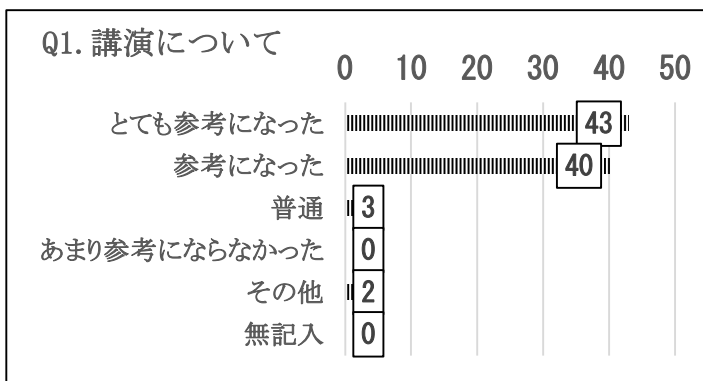
参加者 127名(新型コロナウイルス感染対策の観点から規模縮小での開催)

内 容

- (1) 講演 「新しい生活様式におけるフレイル予防・介護予防・健康づくりについて」
東京大学院医学系研究科老年病学准教授(日本老年医学会幹事) 小川 純人 氏
- (2) 報告・提案
 - ①動画放映「令和2年度こけないからだ体操モデル地区の取り組み」
 - ②「こけないからだ体操を通しての報告・提案」 飯梨町「はつらつ教室」代表 田中 明美 氏
 - ③「校区別地域ケア会議等を通しての報告・提案」 安来市地域包括支援センター長 足立 卓久
 - ④「第8期介護保険事業計画構想における介護予防について」 安来市介護保険課長 内藤 有里子
- (3) 全体協議(中止)

安来市地域ケア推進会議アンケート結果(抜粋)

回収率 88名(71.6%)



Q3. フレイル予防・介護予防・健康づくりについて、会議全体を通しての意見・感想・要望(一部抜粋)

- 実施してみたの気づき、反省、やるべきこと、理念ばかりの時期をすぎ、実践にむけ具体例がみえてよいと思った。(医療関係者)
- 今後の安来市の市民の方達に役立ててあげてほしい。かなり詳しく調査されている。身体全体をみてのとらえ方は大切だと思った。自分自身の日常生活の健康に役立てていこうと思った。(介護・福祉関係者)
- ミニサロン、ミニデイとこけないからだ体操をどのように開催していくべきか考えている。(民生児童委員)
- 健康寿命を伸ばすことは大切なこと。本日の研修は日常生活を見直す(コロナ自粛含めて)よい契機となった。(行政関係者)
- 今日の講演内容をシンプルな冊子にして頂き、各関係機関に配布して頂きたい。具体的にはミニサロンなどで出張講座をして頂けるとよい。(民生児童委員)
- 高齢化が進んでいる中、大変重要な取り組みとなってきている、活動場所が不足している。特に旧市内では、人数も多いので検討が必要と思った。(市議会議員)



東京大学大学院准教授 小川 純人 氏



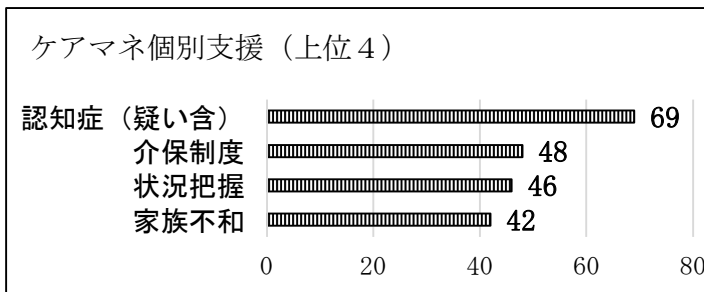
飯梨町「はつらつ教室」代表 田中 明美 氏

4. 介護支援専門員に対する支援

(1) 個別支援

- ・ 困難ケースに対するケアマネへの個別支援（114 件）
- ・ ケアマネから包括への相談シートによる個別支援（2 件）
- ・ 「社会資源情報誌」の更新・提供（市内居宅介護支援事業所）1 回／年

(2) 集団支援



No.	研修名等	実施日	対象者	参加者	研修内容等
1	介護保険最新情報の情報取得について	5/1	市内居宅介護支援事業所	—	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、介護保険制度におけるケアマネジメント業務の弾力対応等（厚労省通知）の最新情報の一覧表を提供
2	医療介護合同勉強会 （安来市在宅介護支援センターと共催）	7/20	医療・介護関係者	125 名	①新型コロナウイルス感染症の発生に備えて 松江保健所長 竹内 俊介 氏 他
3	安来地域介護支援専門員協会 オンライン研修会（共催）	11/7	行政・医療・福祉関係者	24 名	①講演「8050 の基本理解と支援のポイント」 講師 山口大学大学院保健学専攻 教授 山根俊恵氏
4	安来市 主任介護支援専門員連絡会	12/2	市内主任CM	23 名	①行政説明「感染症対応の現状について」 安来市介護保険課 ②情報提供「他法人と連携した勉強会について」 安来市在宅介護支援センターケアプランやすぎ JAしまねやすぎ居宅介護支援事業所 ③グループワーク
5	安来市 介護支援専門員研修会	2/12	市内介護支援専門員	27 名	①事例報告 ②グループワーク ③行政説明 安来市介護保険課 「居宅届・住宅改修・福祉用具等の書式変更について」

4. 介護給付費適正化事業等

No.	業務内容	実施日	事業所数	実施数	備考
1	委託介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントのケアプランチェック	毎月	12 事業所	642	ケアマネジメント委託先の業務管理・指導・助言
2	要介護認定有効期間の半数越え短期入所サービス利用に係るケアプラン点検	11 月	1 事業所	1	給付適正化の観点から、短期入所サービスの利用が認定有効期間の半数を超えているケースについて、居宅サービス計画の点検・助言。

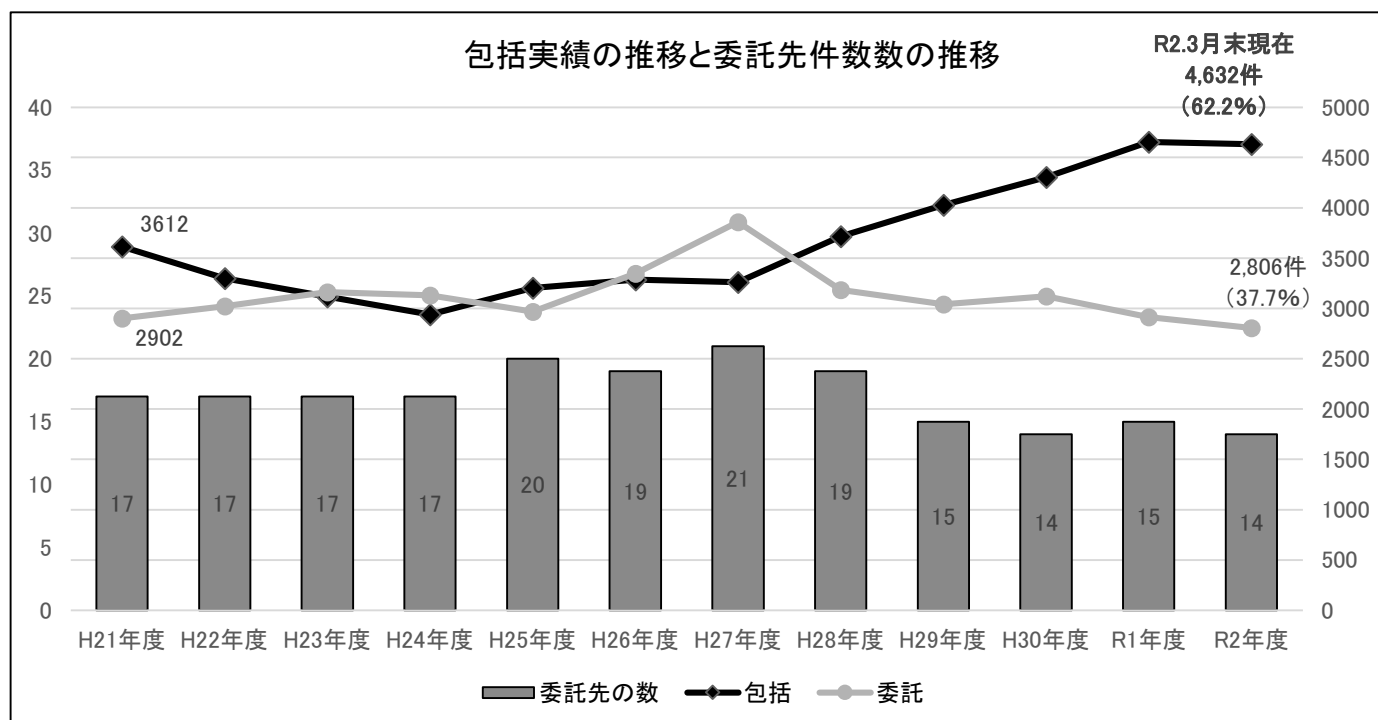
IV. 介護予防ケアマネジメント業務

予防給付ケアマネジメント実績				
要介護度	支援1	支援2	事業対象者	合計
包括支援センター	2,549	2,059	24	4,632(62.2%)
委託分(14カ所)	1,153	1,653	0	2,806(37.7%)
合計	3,702	3,712	24	7,438

分類	新規		継続		事業対象者	計			合計
	介護予防	総合事業	介護予防	総合事業		介護予防	総合事業	事業対象者	
包括支援センター	67	48	3,079	1,414	24	3,146	1,462	24	4,632
委託分(14カ所)	53	26	2,059	668	0	2,112	694	0	2,806
合計	120	74	5,138	2,082	24	5,258	2,156	24	7,438
	194		7,220						

○委託先一覧

1	ケアプランやすぎ	6	居宅介護支援事業所 宇波	11	ケアプラン孫の手
2	しらさぎ苑 在宅介護支援センター	7	介護計画センター	12	ケアマネジメントくるみ
3	JA 居宅介護支援事業所	8	広瀬介護 サポートセンター	13	津田居宅介護支援センター
4	在宅介護支援センター ひろせ	9	介護支援とも・らいふ	14	フローリス夙川 ケアプランセンター
5	エプロンの会	10	いきいきの郷はくた		



V. 一般介護予防事業「住民運営通いの場／こけないからだ体操」

1. 実施地区

- 新(1) 広瀬社会福祉センター (安来市広瀬町広瀬 754)
 新(2) 開公会堂 (安来市飯梨町)
 新(3) 南城谷集会所 (安来市南城谷町)
 (4) 島田交流センター (安来市穂日島町 485)
 (5) 日次集会所 (安来市伯太町日次)
 (6) 広瀬町帳集会所 (安来市広瀬町町帳)

2. 実施団体

- 新(1) 中の丁有志の会 16名 (年齢75～88歳) (男性5名 女性11名)
 新(2) 飯梨町はつらつ教室 10名 (年齢72～90歳) (男性3名 女性7名)
 新(3) 元気に火曜わぁー会 9名 (年齢70～89歳) (男性4名 女性5名)
 新(4) 元気に金力付け曜会 9名 (年齢70～91歳) (男性2名 女性7名)
 (5) 梨の花クラブ 11名 (年齢73～96歳) (男性0名 女性11名)
 (6) 日次女性部 5名 (年齢68～78歳) (男性0名 女性5名)
 (7) 町帳有志の会 9名 (年齢70～86歳) (男性1名 女性8名)

3. 専門職 (アドバイザー)

- (1) 理学療法士 (安来市立病院・安来第一病院・医師会診療所)
 (2) 管理栄養士 (いきいき健康課・安来市栄養士会)
 (3) 歯科衛生士 (安来市歯科衛生士会)
 (4) 保健師 (介護保険課)

4. スケジュール

(1) 新規実施地区

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	初回体力測定		栄養講座		半年後体力測定				
	基本チェックリスト実施		口腔講座		基本チェックリスト実施				
	包括支援センター職員による 短期集中支援			住民の主体的な運営 (包括支援センターより、2カ月に1度の定期的なフォローアップ)					

(2) 継続実施地区

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容						栄養講座				1年後体力測定		
						口腔講座				基本チェックリスト実施		
	住民の主体的な運営 (包括支援センターより、2カ月に1度の定期的なフォローアップ)											

5. 開催方法

(1) 支援期間

- ① 3カ月間、担当職員が毎回参加し短期集中支援を行った。
- ② 4カ月目以降は住民の主体的な運営に移行。(2カ月に1回程度フォローアップを行った。)

(2) 取組内容

- ① 準備体操
- ② 歌を歌いながら行う6種類の筋力体操
- ③ 整理体操

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

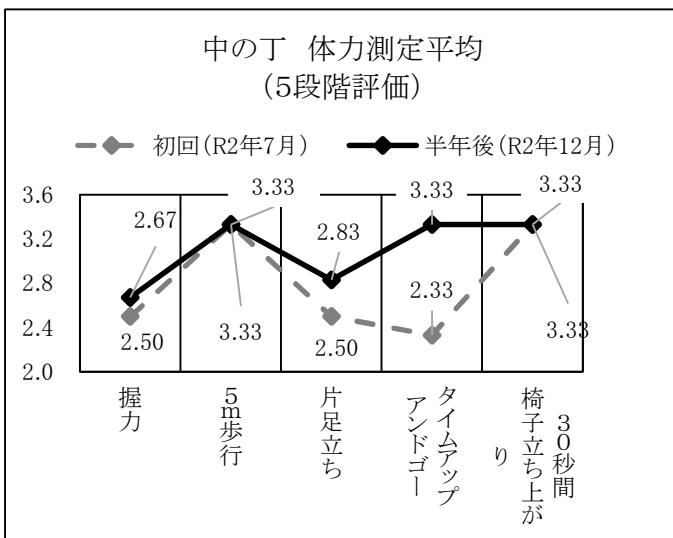
- ① 新規地区については4月より開催予定であったが、緊急事態宣言の発令に伴い7月からの開催とした。
- ② 実施会場の入場前に検温を実施
- ③ 会場の出入りの際にアルコール消毒液を用いた手指消毒を実施
- ④ 体操に用いた物品はアルコール入りウェットティッシュを用い、消毒を実施
- ⑤ 30分に一回、窓やドアの開放、サーキュレーターの使用等、10分間の換気を実施

6. 効果測定

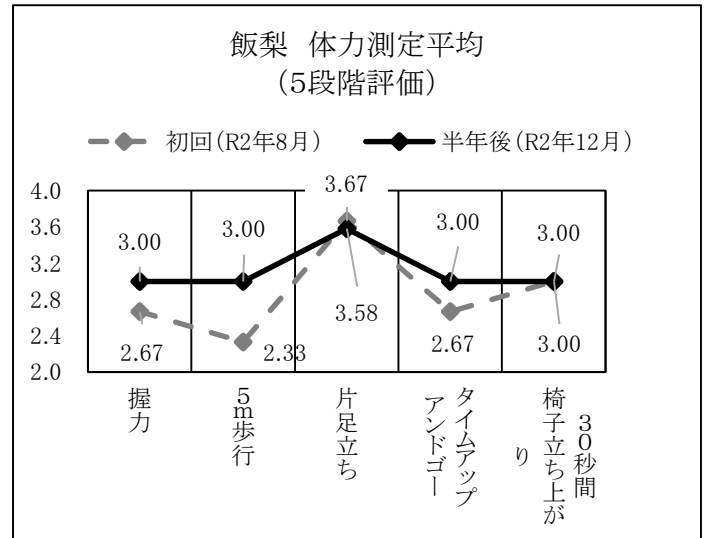
開始時と6カ月後に体力測定と基本チェックリストを実施。
運動機能と生活機能の両面から効果・検証を行った。

(1) 体力測定 (新規地区の結果)

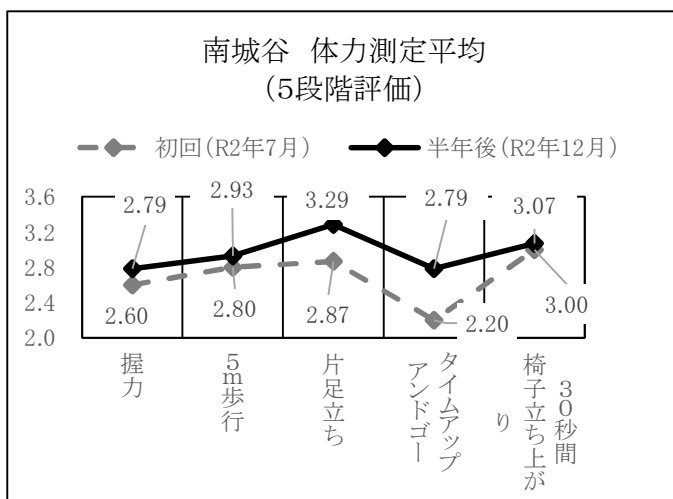
① 中の丁



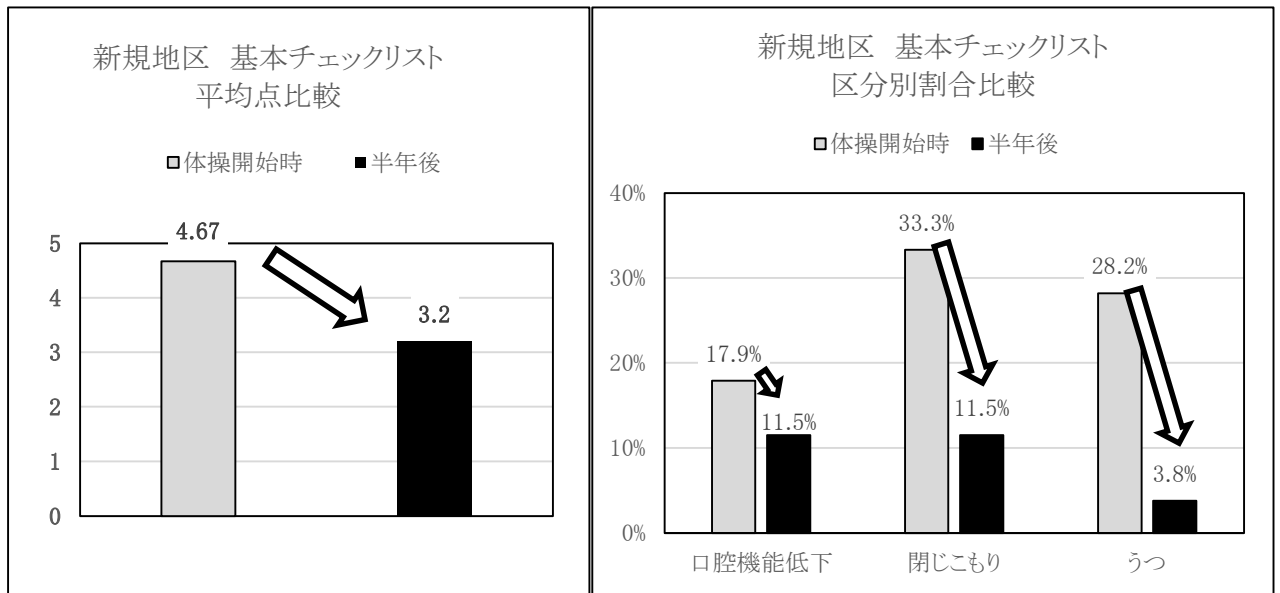
② 飯梨町



③ 南城谷



(2) 基本チェックリストの実施



※フレイル早期発見システム「ASTER II」（株式会社コロブス製）を用い、集計・分析を行った。
（点数が低くなるほど「要介護状態」や「フレイル状態」が改善されている。）

(3) 測定評価

「体力測定」では、全ての新規実施地区において数値が向上するという結果がみられた。

「基本チェックリスト」では新規地区での合計平均点が減少している。また、細かい区分に分けて評価したところ、「口腔機能低下」「閉じこもり」「うつ」といった状態にある方が減少「介護予防」や「フレイル予防」につながっていることが分かる。「こけないからだ体操」を実施したことにより、身体・生活機能の両面において維持・改善につながっていると考える。

8. 交流会の開催

期 日 令和2年12月16日（水）

会 場 広瀬社会福祉センター

参加者 18名

交流会の様子



感染予防を徹底しながら、継続実施地区と新規実施地区合計6地区の代表者参加により令和2年度交流会を開催。「中の丁有志の会」声掛けの下全員で体操を行う。その後意見交換会を実施。それぞれの地区での独自の取り組みや継続実施のポイント等を共有した。

【参加者の感想】

- ・この会に参加して、他の地区のことが分かってよかった。
- ・他地区での取り組みを自分の地区に持ち帰り、試してみたい。
- ・他の地区の方が頑張っているのを見ると、自分たちも頑張るぞという気持ちになる。

VI. 認知症施策推進事業

1. 認知症の早期発見 早期支援

(1) 相談体制の強化

認知症地域支援推進員による個別相談

新規63件 継続85件 合計148件 延べ支援回数1,568回

総合相談における「認知症」についての相談件数は前年度(1638件)よりも更に増えており、1.26倍の2065件であった。このうち、継続しての支援が必要なケースは、必要に応じて認知症地域支援推進員や認知症初期集中支援チームで対応した。

(2) ネットワーク機能の強化

①個別地域ケア会議開催事例

家族の介護力が乏しく排泄物の処理ができておらず、食事摂取量も不十分な高齢者の方について、今後のサービス利用について検討することを目的に会議を開催。まずは入院による体調改善を目指すこととなり、9月に入院。その後体調改善し介護老人保健施設へ入所となった。

②認知症初期集中支援チームの実施

支援対象者 71件(前年度45件) 延べ支援回数 950回

延べ訪問回数 391回 電話回数 404回 来所回数 34回 その他回数 121回

チーム員会議開催数 6回(5月28日、7月13日、12月18日、1月19日、2月22日、3月2日)

2. 認知症高齢者及び家族を支援する体制の確立

(1) 在宅生活支援の体制づくり

新①パートナー養成研修

期 日 令和2年9月16日(水)

会 場 安来中央交流センター 音楽室

参加者 4名

内 容 澤野しのぶ氏(鳥取市の藤田和子氏のパートナー)による対談形式の講話と座談会

②認知症研修会～高齢者SOSネットワークの構築について～

期 日 令和2年10月10日(土)

会 場 広瀬社会福祉センター 視聴覚室・会議室

参加者 45名

内 容 新型コロナウイルス感染対策の観点から規模縮小により、認知症介護研究・研修東京センター研究部長の永田久美子氏によるzoomを活用した講演とグループワークを行った。

③安来市男性介護者のつどい

期 日 令和3年3月6日(土)

会 場 ふれあいプラザ 交流室

参加者 4名

内 容 ピアカウンセリング方式で日頃の介護等について話し合った。

④家族介護者への支援

認知症家族のつどい

実施月	参加人数	
4月	1名	安来中央交流センター会議室にて毎月第3月曜日に実施。 奇数月は、認知症の人と家族の会の方に来ていただき、具体的なアドバイスを受ける機会を設けている。 コロナ禍においても、大幅に減少することなく、また、継続参加される方が増加。今後継続の方でつどいの運営に関われる方を育成する必要がある。平日では参加しにくいとの声から12月26日(土)に初めて休日開催を実施した。市民への周知方法の検討が必要。
5月	0名	
6月	1名	
7月	1名	
8月	4名	
9月	2名	
10月	4名	
11月	3名	
12月	2名	
令和3年1月	0名	
2月	4名	
3月	6名	
合計	28名	

3. 基盤整備

(1) 認知症サポーター養成講座 開催回数 4回 延べ受講者人数 43人

開催日	団体名	人数
9月14日	生活支援ボランティア養成講座	29
10月18日	休日相談	3
2月21日	休日相談	2
3月25日	アクサ生命	9
計		43

(2) 認知症に関する出張講座 開催回数 3回 延べ受講者数 56人

開催日	講座名	依頼先	人数
10月20日	認知症講話	栄町2ミニサロン	10
12月27日	認知症講話	たけのこサロン	26
1月14日	認知症講話	市中屋ミニデイ	20
	計		56

(3) 「もの忘れトレーニングプログラム(ものトレ)」実施による認知機能への効果の検証

令和元年度より鳥取大学と共同研究により、こけないからだ体操実施後、もの忘れトレーニングを毎週行うことによる効果検証を実施。今年度より新規2地区、非対象群として新規2地区で実施。

研究対象群: 毎週1回、こけないからだ体操実施後にももの忘れトレーニングを実施。

半年毎にももの忘れ相談プログラムを実施。

非対象群: 毎月1回ミニサロン・ミニデイに参加している方を対象に半年毎にももの忘れ相談プログラムを実施。

	地区名	人数
研究対象群	日次女性部	5
	(新)飯梨町はつらつ教室	9
	(新)中ノ丁有志の会	10
非対象群	(新)石原ミニサロン	9
	(新)井尻ミニデイ	12

Ⅶ. 組織運営

1. 情報発信の強化

(1) ホームページの運営・更新

①内容

包括事業の情報、各種講演会のチラシ、行事の様子等を随時掲載・更新している。

②掲載項目・記事

- (ア) 包括支援センター概要
- (イ) 事業計画・事業報告・包括評価
- (ウ) 認知症施策総合推進事業、本人交流会日程、認知症講演会案内
- (エ) 地域ケア会議、校区別地域ケア会議、自立支援型ケアマネジメント会議
- (オ) 介護予防（こけないからだ体操の内容、紹介映像、交流会の様子）
- (カ) 権利擁護（権利擁護セミナーの要項、消費被害・虐待の注意喚起記事）
- (キ) その他（包括ニュースレター バックナンバー掲載

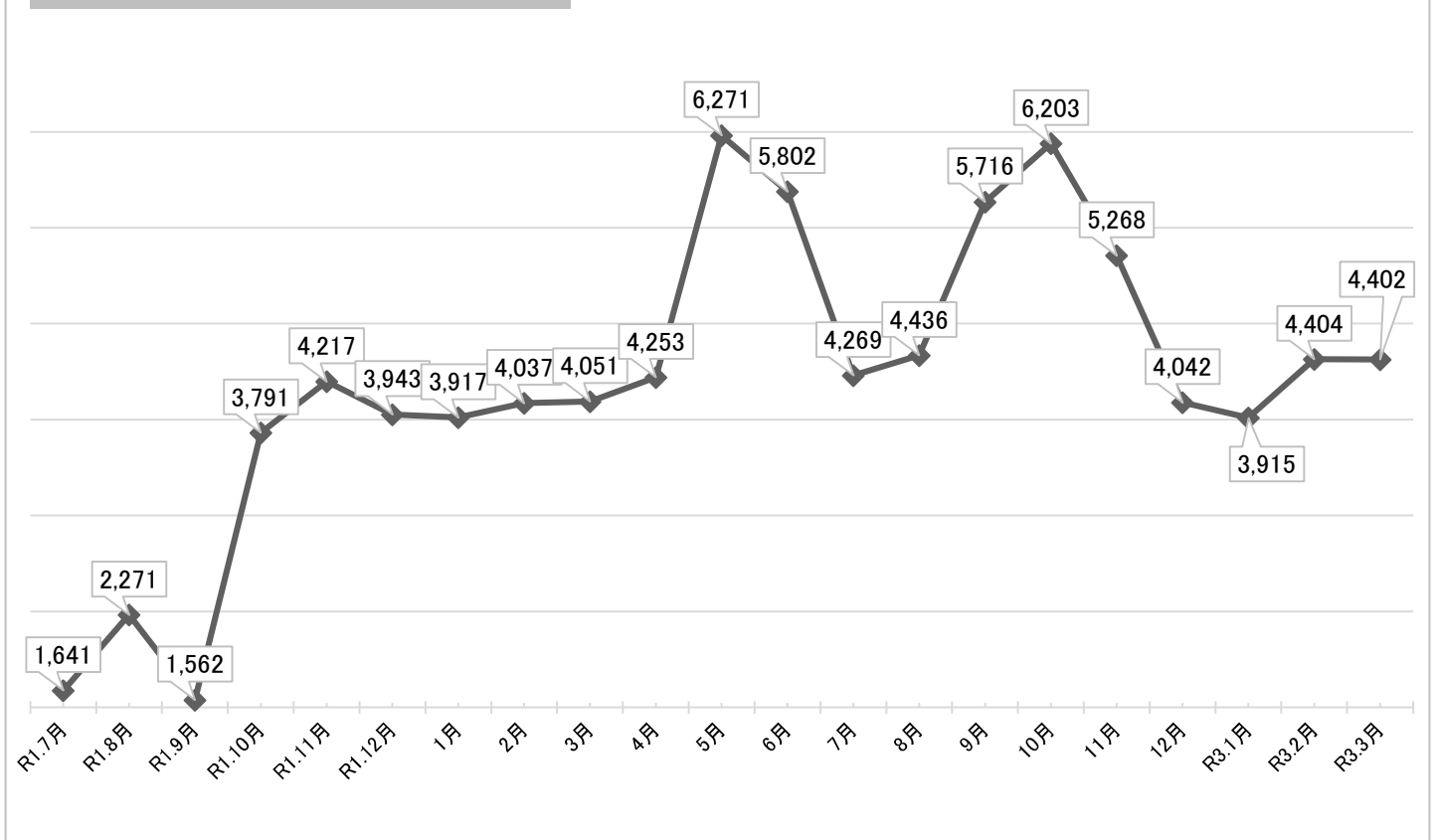
ケアマネから包括への連絡シート、地域見守り（気づき）シートのPDFファイル、入力フォーム、緊急事態宣言に伴う介護予防ケアマネジメントの取扱について、新型コロナウイルス感染拡大に伴う後期高齢者の生活や健康に与える影響調査報告書）

③アクセス・閲覧数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
アクセス数	4,253	6,271	5,802	4,269	4,436	5,716

10月	11月	12月	R3.1月	R3.2月	R3.3月	計
6,203	5,268	4,042	3,915	4,404	4,402	58,981

ホームページ開設時からのアクセス数推移



(2) 包括ニューズレターの発行

包括事業の告知・内容を掲載し年4回を目安に発行。市内の事業所、関係機関、市内民生児童委員、各交流センターなどに発送するとともに、ホームページにバックナンバーを掲載している。

①第5号 5月発行

- (ア) 新体制紹介
- (イ) 養護者による高齢者虐待の増加
- (ウ) こけないからだ体操・認知症予防の一体的な推進
- (エ) ミニ講座・休日相談についてのお知らせ

②第6号 9月発行

- (ア) 「感染拡大に伴う後期高齢者の生活や健康に与える影響調査」の結果
- (イ) 令和2年度「こけないからだ体操」
- (ウ) 「令和元年度総合相談支援業務」からみえてくる課題
- (エ) 令和2年度「校区別地域ケア会議」についてのお知らせ

③第7号 1月発行

- (ア) 令和2年度「こけないからだ体操」新規3地区の効果測定
- (イ) 「こけないからだ体操」交流会の開催報告
- (ウ) 市内初の「支援者のための成年後見制度活用講座」開催報告
- (エ) 市内初の「認知症パートナー養成研修」開催報告
- (オ) 令和2年度「校区別地域ケア会議」開催報告
- (カ) 令和2年度「安来市地域ケア推進会議」のご案内

令和2年9月10日発行
発行 安来市地域包括支援センター (高齢者まご相談センター)
電話 0854 (32) 9110
0854 (32) 3310
<https://www.yasugi-hokutsu.jp/>
包括ニューズレター 第6号

「新型コロナウイルス感染拡大にともなう後期高齢者の生活や健康に与える影響調査の結果」

調査目的
新型コロナウイルスの感染拡大にともなう各種行事の中止、公共施設の休止、病院や施設の面会制限等の行動自粛要請が続く中、本年6月高齢者の安否確認をはじめ、新型コロナウイルス感染症の流行前と後で高齢者の生活がどのように変わり、それが健康にどのような影響を及ぼしたのか、明らかにするための調査を行いました。

調査結果の一部抜粋

項目	2020年	2016年
昨年と比べて外出の回数が減少した	45%	35%
週に一回以上外出しない	15%	10%
バスや電車で一人で外出する頻度が減った	30%	20%
この一年間に転んだことがある	25%	20%
15分くらい続けて歩けない	40%	30%
椅子から何も掴まらずに立ち上がれない	45%	35%
階段を手すりや壁を伝わらずに登れない	50%	40%

調査結果
2016年と比べて2020年では「外出の頻度が減った」といった社会活動の機会の減少を示唆するデータをいくつか得ることができました。このような結果から、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、高齢者が家に閉じこもり、生活が不活発である状態に陥ることで「フレイル」の進行や「認知機能の低下」につながる危険性があることが明らかになりました。

今後の方向
調査結果を踏まえ、「新しい生活様式」に沿った形での住民運営通いの場の拡充をはじめ、自宅で行えるフレイル予防の方法についての啓発を行う必要があり、高齢者の「生き甲斐」を高め「フレイル予防」「認知機能の低下予防」にもつながり医療や介護の負担軽減にもつながるものと考えます。

令和2年度「こけないからだ体操」がスタート!

■平成30年度より実施している、「こけないからだ体操」を本年度は7月より新たに下記の3地区で開始しました。

地区	団体名	参加者
南城谷 (火) (金)	元気で火曜ワーカー会 元気で金力付け囉会	24名 (男性8名) (女性16名)
中の丁 (水)	中の丁有志の会	11名 (男性6名) (女性5名)
飯梨町 (木)	飯梨町はつらつ教室	8名 (男性1名) (女性7名)

「週に一回も続けられるか分からん」「腰も弱っとるし、できるだろうか」開始当初はこういった声が上がっていました。開始より一か月経つと、「もう体が軽くなってきた気がする。」「足が上がるようになったわ。」「どの嬉しい声が上がっています。今後、体操を継続していくうえで皆様からの反応が楽しみです。」

■新型コロナウイルス対策のため三密を避け、体操前後の手指消毒、マスクの着用する等の感染予防行動をとりながら、熱中症を予防するため適宜休憩を挟み水分補給を行いながら体操を実施しています。

■今年度は飯梨町、中の丁の2地区にて、「こけないからだ体操」と「もの忘れ予防トレーニング(ものトレ)」を行い、介護予防事業と認知症予防事業を一体的に推進していくこととなっています。また、新たにフレイル早期発見システム「ASTER II」を導入し、「こけないからだ体操」参加者とは比較調査を行い、「こけないからだ体操」の効果を検証していくこととなっています。

※こけないからだ体操とは
週1回、30分程度の簡単な体操です。地域包括支援センターの保健師・看護師が短期集中支援を行い、専門職の定期的な関与による「体力測定」や「栄養」「口腔」などのプログラムも行っていきます。

※参考 包括レター 第6号

2. 行事等

(1) 各種会議開催、出席状況

会 議 名 等	開 催 日	備 考
令和2年度パートナー養成研修打ち合わせ会	6/2	
令和2年度島根県老人福祉計画・介護保険事業支援計画策定委員会	6/9, 9/7, 12/15	
令和2年度総合相談支援事業業務委託事業所連絡会	6/17	
令和2年度一般介護予防事業こけないからだ体操最終確認会議	6/23	
認知症家族のつどい	7/20, 8/17, 10/19, 11/16.12/21,1/18,2/15,3/16	
医療介護合同勉強会	7/20	
令和2年度安来市地域医療連携・整備検討会	8/20	
令和2年度安来市主任介護支援専門員連絡会世話人会	9/2	
令和2年度パートナー養成研修	9/16	
令和2年安来市高齢者虐待防止対策協議会	10/1	
令和2年度一中校区地域ケア会議	10/8	
令和2年度認知症研修会	10/10	
令和2年度個別地域ケア会議(自立支援型ケアマネジメント会議)公開講演会	10/16	
山陰ど真ん中立ち上げ会	10/20	
令和2年度二・三中校区地域ケア会議	10/21	
島根県立医大看護学科実習生受け入れ等	10/23(2名)	
島根総合福祉専門学校 社会福祉士実習受け入れ等	10/5～11/5(2名)	
令和2年度広瀬中校区地域ケア会議	11/5	
令和2年度「支援者のための成年後見活用講座」	11/6	
安来地域介護支援専門員協会研修	11/7	
令和2年度伯太中校区地域ケア会議	11/16	
令和2年度島根県介護支援専門員資質向上事業研修委員会専門部会	11/20	

会 議 名 等	開 催 日	備 考
令和 2 年度安来市主任介護支援専門員連絡会	12/2	
令和 2 年度地域包括ケアシステム関係機関連絡会議	2/10	
令和 2 年度介護支援専門員研修会	2/12	
令和 2 年度安来市地域ケア推進会議	2/28	
令和 2 年度及び令和 3 年度認知症基盤整備事業打合せ	3/9	

(2) グループホーム等運営推進会議出席状況

会 議 名 等	開 催 日	備 考
きららの家・ことぶきの家・昌寿の家運営推進会議	5/25, 7/27, 9/28, 11/30、1/25,3/30 (書類審議)	
かがやきの園運営推進会議	5/13, 7/8, 9/9,1/13,3/10(書類審議)、11/11(対面会議)	延べ 1 名
やすらぎの園運営推進会議	7/8,1/13(書類審議)	
絆・やすぎの郷運営推進会議	6/11, 8/20, 9/10, 10/8, 12/10,2/11(書類審議)	
荒島ふれあいの郷運営推進会議	5/14, 7/16, 9/10, 11/12(書類審議)、3/18(対面会議)	延べ 1 名
かも運営推進協議会	5/13, 7/8, 9/9(書類審議)、11/11,1/13,3/10(対面会議)	延べ 3 名
ソレイユあらしま運営推進会議	5/8(書類審議)、7/10, 9/11, 11/13,1/8,3/12(対面会議)	延べ 5 名
なごみ運営推進会議	5/20,7 月,9 月,11 月,1月,3月(書類審議)	
久遠の響運営推進会議	4/6, 6/8, 8/3, 10/5, 12/7,2/8(書類審議)	
ひだまりの里・サテライトふべ運営推進会議	5/28, 7/30, 9/24, 11/26,1/28,3/25(書類審議)	
ふるさと母里運営推進会議	6/17, 8/19, 10/21, 12/16,2/17,3/17(書類審議)	
伯寿の郷運営推進会議	5/19(書類審議)、7/21, 9/15, 11/17,1/19,3/16(対面会議)	延べ 5 名
和み館運営推進会議	6 月(書類審議)、12/2(対面会議)	延べ 1 名
比田デイサービス運営推進会議	8/18,2/16(書類審議)	
JA やすぎデイサービスセンターふれあい運営推進会議	6/29,2/25(書類審議)	
レッツ倶楽部安来中央運営推進会議	5/19, 10/20(書類審議)	
しらさぎ苑第一デイサービス運営推進会議	8 月(書類審議)、3/5(対面会議)	延べ 1 名

(3) 職員の研修参加状況

研 修 名	会 場	日 時	備 考
令和2年度新任認定調査員研修	eラーニング	6/1～15	※eラーニング
令和2年度地域包括支援センター職員研修会(公文書)	広瀬社会福祉センター	6/26	
令和2年度社会福祉法人会計実務研修(入門コース)	eラーニング	8/13～9/10	※eラーニング
令和2年度社会福祉法人会計実務研修(初級コース)	eラーニング	8/13～9/10	※eラーニング
令和2年度介護保険認定調査員研修(現任研修)	安来市防災研修棟	9/11	
令和2年度地域包括支援センター職員研修会(相談援助)	広瀬社会福祉センター	9/25	
2020年度社会福祉士実習指導者講習会	オンライン研修	10/3～4	※オンライン研修
令和2年度認知症初期集中支援チーム員研修	神戸国際展示場1号館	10/17～18	
令和2年度地域包括支援センター職員研修会(相談記録)	広瀬社会福祉センター	10/23	
令和2年度地域包括支援センター職員研修会(口腔講座)	広瀬社会福祉センター	11/27	
医療従事者及び介護保険施設等勤務者向け認知症研修会	安来商工会議所大ホール	11/28	
認知症地域医療連携会議・サポート医フォローアップ研修会	オンライン研修	1/31	※オンライン研修
ケアマネも知りたい難病治療の決定と選択	安来中央交流センター	3/10	
地域づくりと魅力的な介護予防に関するセミナー	オンライン研修	3/18	※オンライン研修
令和2年度高齢者虐待防止研修	オンライン研修	3/19	※オンライン研修

(4) 職員の講師派遣状況

研 修 名	会 場	日 時	テ ー マ ・ 内 容
森口ミニサロン	山佐交流センター	8/26	「こけないからだ体操」
令和2年度宇賀荘地区ながとろの会	宇賀荘交流センター	9/14	「こけないからだ体操」
令和2年度生活支援ボランティア養成講座	わかさ会館大集会室	9/14	「認知症サポーター養成講座」
栄町2ミニサロン	広瀬町名誉町民顕彰館	9/15	「フレイル予防」
栄町2ミニサロン	栄町集会所	10/20	「認知症とゲーム」
須山地区ミニサロン	須山集会所	10/21	「介護予防について」

研 修 名	会 場	日 時	テ ー マ ・ 内 容
本町ミニサロン	広瀬交流センター	11/10	「こけないからだ体操」
ほんわかサロン	広瀬八幡町公会堂	11/11	「家庭でできるロコモ予防」
中の上ミニサロン	安田中の上集会所	11/19	「こけないからだ体操」
いきいき健康スポーツの会	下石原公会堂	11/26	「こけないからだ体操」
だんだん会	いきいきの郷はくた	12/3	「こけないからだ体操」
うきうきサロン	菅原交流センター	12/4	「こけないからだ体操」
大西・西中町有志の会	大西町公会堂	12/17	「こけないからだ体操」
竹の子サロン・さわやかサロン	赤屋交流センター	12/17	「認知症予防」
市中屋ミニデイ	井尻交流センター憩いの家	1/14	「認知症予防について」
荒島地区健康推進協議会	荒島交流センター	1/17	「こけないからだ体操」
ミニデイサービスとかみサロン	やすぎ懐古館一風亭	1/18	「こけないからだ体操」
令和2年度介護支援専門員実務研修	くにびきメッセ 501 会議室	1/27	「研修ファシリテーター」
母里生活支援協議体	伯太町母里旧奥野邸	2/4	「もの忘れ相談プログラム」
上町ミニサロン	広瀬社会福祉センター	2/25	「こけないからだ体操」
赤江地区健康会議	赤江交流センター	2/26	「こけないからだ体操」
令和2年度介護支援専門員実務研修	くにびきメッセ国際会議場	3/1	「研修ファシリテーター」
東加茂第一ミニサロン	東加茂第一集会所	3/11	「こけないからだ体操」
ミニデイサービスかえるの会	比田交流センター	3/25	「認知症予防」
宇波喜楽会	宇波交流センター	3/27	「こけないからだ体操」
井尻明朗会	井尻老人福祉センター	3/29	「こけないからだ体操」

Ⅷ. 主な実態調査

1. 新型コロナウイルス感染拡大にともなう後期高齢者の生活や健康に与える影響調査

(1) 実施理由

新型コロナウイルスが全国的に拡大する中、政府による「緊急事態宣言」をはじめ、行政による公共施設の休業、各種行事の中止、不要不急の行動自粛要請が発せられることとなった。その結果、他者との交流機会が減り、特に、後期高齢者の方にとっては閉じこもりや体力低下等生活面や健康面で悪影響を及ぼすことが懸念された。その影響を明らかにし、これからの新しい生活様式におけるフレイル予防・介護予防のあり方に資するため、調査を行った。

(2) 調査対象者

平成28年度ミニサロン・ミニデイサービス利用者を対象とした「基本チェックリスト」実施者。

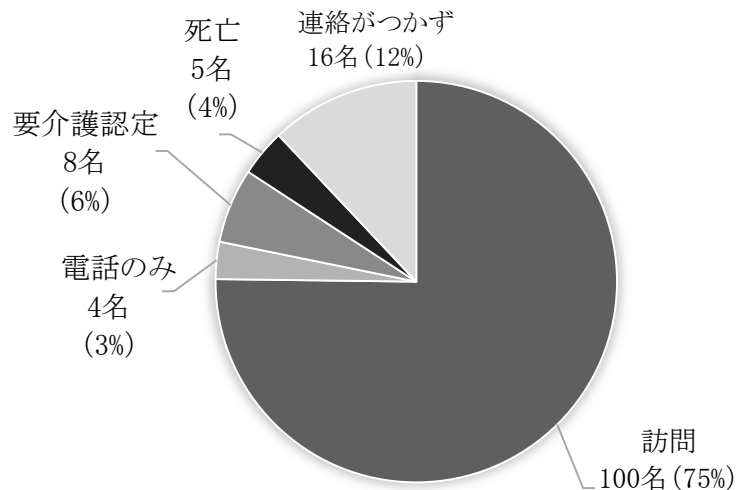
(3) 実施方法

- ①電話による「安否確認と訪問調査の意向確認」 (6月)
- ②「訪問調査」を希望された方(100名)に対する「ヒアリング調査」及び「基本チェックリスト」実施。(6～7月)
- ③「訪問調査」を希望されなかった方(4名)に対する電話による「ヒアリング調査」実施。(6～7月)
- ④「基本チェックリスト」の結果をフレイル早期発見システム「ASTER II」を用い、集計・分析。
その結果、「フレイル状態の疑いあり」と判定された方に対するフレイル予防の情報提供と行動奨励実施。

(4) 調査結果

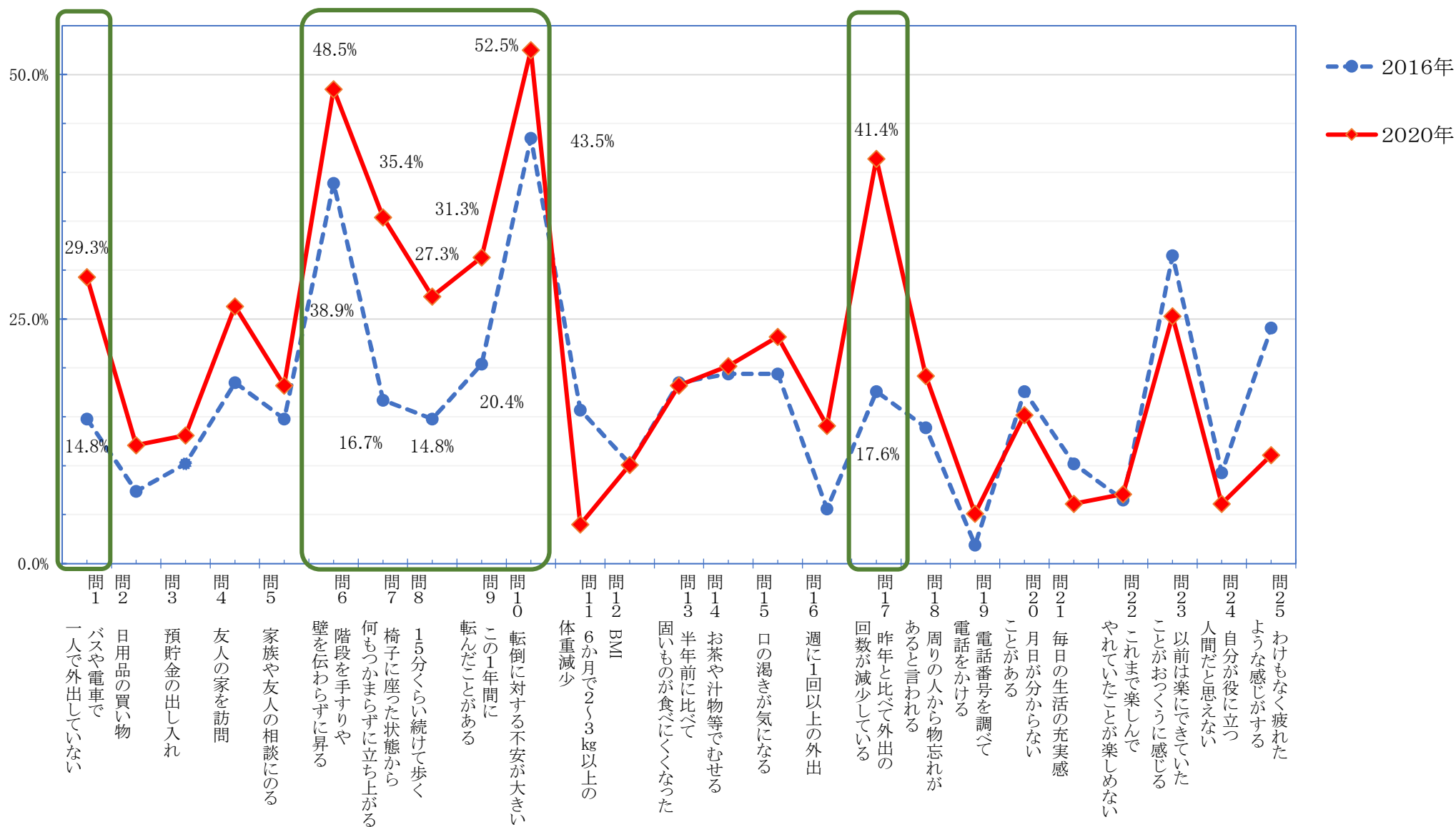
①調査対象者の内訳

総数	133人
訪問	100人 (75%)
電話のみ	4人 (3%)
要介護認定	8人 (6%)
死亡	5人 (4%)
連絡がつかず	16人 (12%)
調査実施者	104人 (78%)



平成28年度ミニサロン・ミニデイサービス利用者を対象とした「基本チェックリスト」実施者に対する、電話による「安否確認と訪問調査の意向確認」を実施。その結果、訪問調査希望者：100名、訪問調査非希望者：4名、要介護認定者：8名、死去者：5名、連絡がつかなかった方：16名であった。

③基本チェックリストの結果



2. 安来市における医療・介護サービスの実態調査

(1) 実施理由

本市における、高齢化率は36.7%で、集落によっては70%を超えている地区もある。現在、地域包括ケアシステムの深化・推進により、在宅医療を必要とする方や居宅介護サービスを必要とされる方が多くなりつつあり、今後、ますます医療機関や介護サービス事業所への需要が高まることが予測される。

実際に、安来市地域包括支援センターに寄せられる相談の中でも「安来市南部地域の医療・介護サービスの利用が限られること」「社会資源がないこと」などの切実な相談や要望が寄せられている。特に、訪問系・通所系サービスについては、事業所の規模や体制面をはじめ、遠隔地であることで支援が必要な人でも「サービスが受けられない人」が多く散見されるようになっている。そこで、安来市内・近隣市町村で医療・介護を提供している医療機関、介護事業所へのアンケートをとおり実態把握を行うとともに、今後の安来市における医療・介護サービスの提供体制についての検討及び政策形成に資することを目的とし調査を行った。

(2) 調査対象

安来市内でサービス提供している安来市・松江市・雲南市・奥出雲町・米子市・南部町内の医療機関・薬局及び介護サービス事業所

(3) 調査期間

令和2年12月21日～令和3年3月18日

(4) 実施方法

介護支援専門員へ一次調査を実施。アンケート結果で導き出された安来市内でサービス提供している安来市・松江市・雲南市・奥出雲町・米子市・南部町内の医療機関・薬局及び介護サービス事業所を対象に、訪問による配布・回収調査を実施（一部郵送）

(5) 現在の進捗状況

【アンケート回収率】

安来市内医療機関・介護保険事業所・薬局 回収率 100%
 安来市外医療機関・介護保険事業所・薬局 回収率 91%

病院	:82%
診療所	:90%
介護保険事業所	:94%
薬局	:95.6%

【有効回答率】 100%

